

朝礼（3月13日） 校長講話

少しずつ春めいてきました。そんな土曜日、3月11日を皆さんはいつもと変わらず過ごしたのではないのでしょうか。しかし、中には特別な思いでこの日を迎えた人がいます。テレビや新聞、インターネットのニュースでその様子が報じられていたので知っていると思いますが、6年前の3月11日に東北地方を大きな地震が襲い、津波や原子力発電所の事故などでたくさんの命が失われ、今も自分が住んでいたところに帰ることもできず仮設住宅で暮らしている人がみえ、2000人を越える人がまだ行方不明だといえます。

この東日本大震災をきっかけに、日本中で、「いざという時にどうしたらよいか」を考えるようになりました。特に、津波という点では、海抜0メートル地帯のこの弥富市は、とても人ごととは思えません。そこで、今年、弥富市では夜7時から地域の人たちが集まって、津波が起きた時にどう避難したらよいかを考える会が、それぞれの小学校区ごとに3、4回開かれました。先生も地域にある学校ということで一緒にその会に参加し、地域の人たちと話をすることができました。そこで話し合われたことの一部を今日は紹介したいと思います。

地震などの自然災害が起きた時に、まずなくてはならないことは「自助」です。これは、「自分を助ける」「自分の命を守る」という意味です。皆さんが避難訓練などで、まず机の下にもぐって自分の身を守る行動をとります、これが「自助」です。そして、自分の命が守れたことを確認できたら、次は「共助」をします。「共に助け合う」という意味ですが、自分の周りにいる人の様子を見て、「大丈夫？」「ここには危ないから逃げましょう！」と声をかけ、手をさしのべることを「共助」といいます。そして、そうやって近くの避難所に身を寄せた後に、「公助」といわれる、消防や救急隊員、市役所の方々が助けに来てくださいます。もちろん、市役所や消防の方々はすぐにでも助けに行きたいのですが、同時に何万の人を助けることはできません。ですから、どうしても時間がかかってしまいますので、その公助が届く間での間は、「自助」や「共助」で命を守っていかなくてはなりません。

この「自助」「共助」「公助」は以前にも避難訓練で話をしたと思いますが、今年、市で行われた会で、この3つに加えて「近所」がとても大切だという話を聞きました。皆さんは自分の家の隣にどんな方が住んでみえるか知っていますか。一人暮らしのお年寄りがみえませんか。まだ歩けない小さな子がいませ

んか。今年、3月11日は土曜日でした。普段、学校にいる時に大きな地震が来たら、皆さんは遠くに行っている高校生や大学生、大人の人以上に力を発揮してほしいと思います。しかし、今年のように土曜日で家にいる時に地震がやってきたら、地域の一人として「近所」の人の命を一人でも多く救ってほしいのです。中学生の皆さんはそんな大切な役割を担う力があるということを、ぜひ知っておいてください。